

高賀山を信仰の対象とする高賀信仰は、平安時代から室町時代にかけて白山信仰の影響を受けて始まったものです。本地垂迹説により十一面観音、大日如来が本地仏として信仰され、さらに虚空蔵菩薩信仰になりました。

高賀神社に伝わる蓮華峯寺仏像群 28 軀、懸仏 280 面、鰐口 1 口、錫杖 1 柄、和鏡 7 面、神像 16 軀、神酒壺 1 対、大般若経 502 巻が岐阜県重要文化財として一括指定を受けています。

蓮華峯寺仏像群の観音菩薩像には天治年間(1124—1126)の銘があり、県内で最も古い紀年銘のある仏像です。鰐口には明徳3年(1392)の銘があります。懸仏の種類は虚空蔵菩薩像が最も多く、他に阿弥陀如来像、十一面観音像などがあり、嘉禎3年(1237)、文永5年(1268)、貞治元年(1362)などの墨書銘があります。

高賀信仰を考える上で、貴重な一括資料です。

関の文化財探訪

その31

関の「文化財」を紹介します。

照会先 文化財保護センター ☎ 46-2313



▲和鏡



▲懸仏

豆知識

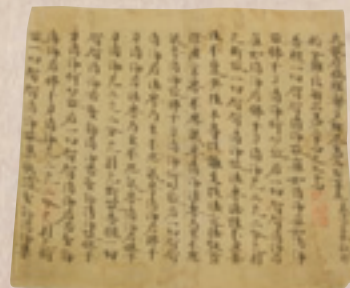
本地垂迹説—平安時代から本格化した神様と仏様をともに信仰の対象とする神仏習合の中で、両者の関係を明確化する必要から生じた説。神道の神様が衆生救済のために仏教の仏様の姿で現れたものと考えて、それぞれの仏様(本地仏)に対応する神様(垂迹身)がいます。

アクセス

国道 256 号線から高賀方面へ約 2km
洞戸地域巡回バス「高賀神水庵前」下車、
徒歩約 40 分



▲鰐口



▲大般若経

◆おわびと訂正

広報せき 1 月号「文化財探訪(その 30)」に掲載した記事に誤りがありましたので、おわびして訂正します。

【誤】兼吉(かねきち) → 【正】兼吉(かねよし)